

令和元(平成31)年度  
学校関係者評価報告書



令和2年8月

学校法人 岡山科学技術学園  
岡山科学技術専門学校

## I 令和元年度 学校関係者評価について

学校法人岡山科学技術学園 岡山科学技術専門学校は、文部科学省が平成 25 年 3 月に策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校関係者評価委員会を開催し、令和元年度の学校関係者評価を実施しました。

評価にあたっては、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について協議するとともに、関係の委員の方々から貴重な御意見や御提言をいただきました。

協議を通していただきました御意見や御提言等は大項目ごとに要約し、「令和元(平成 31)年度 学校関係者評価報告書」として取りまとめました。

本報告書の内容につきましては、校内の運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき改善等の具体案を作成し、次年度の学校運営等の改善や学科教育方針の見直しに活かすとともに、本校の教育理念でもあります「技術教育を通じての人間教育」をより充実させ、産業界で活躍できる有為な職業人の育成に繋げて行く所存です。

令和 2 年 8 月 1 日

学校法人 岡山科学技術学園  
岡山科学技術専門学校  
校長 大 月 秀 之

## II 学校関係者評価委員名簿 (敬称略)

氏 名	所 属	関連学科 (学科略記号)
栗田 真志	株式会社プローバ 代表取締役	映像音響学科 (V)
小上 敏寿	旭電業株式会社 総務部 総務課係長	電気工学科 (E)
原 潔巳	平喜酒造株式会社 製造部長	食品生命科学科 (B)
石居 祐二	株式会社和田組 業務部 人材開発教育担当	建築工学科 (K)
木山 英治	株式会社ジツタ中国 岡山店 店長	測量環境工学科 (N)
岡田 和久	東海メンテナンス株式会社 代表取締役社長	ものづくり創造学科 (S)
森 幸久	マルケー自動車整備株式会社 総務課長	一級自動車工学科 (LM)
坂本 忠俊	山陽ヤナセ株式会社 営業本部サービス管理室 次長	二級自動車工学科 (M)
杉山 昌希	両備ホールディングス株式会社 両備テクノモビリティカンパニー岡山工場 整備課長	国際自動車工学科 (IM)
藪田 尊典	岡山科学技術専門学校 同窓会 会長	全科
宮成みどり	岡山科学技術専門学校 保護者会 会長	全科

### Ⅲ 大項目ごとの現状・課題と関係者評価・意見

#### 1 教育理念

##### (1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は適切に定められているか	3.3	94.5%
2	学校の特色はうまく（適切に）表現できているか	3.0	74.5%
3	学校・学科の将来構想（3～5年を見据えた）を抱いているか	2.5	55.6%

右欄は4または3と答えた人数の割合（%）を示す

##### (2) 現状の概要

本校の教育理念、目的、育成人材像については、教育活動方針に定め、学校案内や学科ガイドブック等で具体的に示すとともに、学生、教職員に徹底するべく取り組んでいる。

本校の教育目標は、高度産業社会の科学的発展に寄与できる優秀な技術者の育成である。専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動の柱とし、社会の変化に柔軟に対応できる人材の育成に努めている。

現在、当校にとって最も重要な問題は、学科定員の確保である。これまで日本語学科の設置、留学生専科の国際自動車工学科の設置などの対策を行い、日本人の減少を留学生でカバーしてきたが、結果として留学生の割合が急増している。特に、令和2年度入試では一部学科に願書が集中したため定員の変更等で混乱したこともあり、学校・学科の将来構想に関する評価が大きく低下した。

##### (3) いただいた意見

- ・年々増加する留学生に対応した教材の充実が求められているのでは。
- ・指導方法が学科ごとに異なるため、学生指導や教育にバラつきがある。

##### (4) 考察

令和2年度には「三つの方針（募集方針、教育目標、到達目標）」を策定し、本校教育の在り方を見直すとともに将来の方向性を明確にしたい。

##### (5) 関係者評価・意見

- 意見：・指導方法が学科ごとに違うという意見があるが、適材適所の仕事にみあう効果的な指導を充実してほしい。（ものづくり創造学科）
- ・グローバル化に伴う本校の全学生のうち留学生と日本人学生の占める割合はどの程度か。（同窓会）
  - ・学校存続のためにも日本人学生の確保にも努めてもらいたい。（同窓会）

## 2 学校経営

### (1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	2.9	72.7%
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2.8	65.5%
3	運営組織や意志決定機能は明確になっているか	2.8	64.3%
4	人事・給与に関する規定等は整備されているか	3.1	81.8%
5	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.4	96.4%
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8	69.6%

右欄は4または3と答えた人数の割合（%）を示す

### (2) 現状の概要

本校教育を取り巻く諸情勢を踏まえて経営方針、教育活動方針を策定し、年度当初の教職員全体会議において非常勤を含む全教職員に周知するとともに、職場懇談会等で適宜確認をしているが、運営方針に関する項目の評価が低下した。急激な留学生の急増と日本人の減少に起因するものと思われる。

学校経営については、組織や分掌等の周知や協議内容等の情報の共有を図り、計画の実現に向け組織的な運営に努めている。

また、運営組織に関しては組織図及び職務分掌に基づき、階層的に権限・義務・責任を設け、意志決定の明確化に努めているとともに、就業規則並びに賃金規程を整備し、人事評価等を適正に行っている。

情報公開に関しては、学校概要、教育活動方針、シラバス、進級・卒業要件、自己点検・自己評価、学校関係者評価等の情報はホームページ上で公表している。

情報システム化については、事務効率の効率化を目標に、今後とも迅速な対応に努めたい。

### (3) いただいた意見

1. 学校と学生の状況を理解した運営が必要。
3. 連携が不十分で、下の意見が上に届いていない、響いていないように感じる。
4. 報酬が平等となるよう、制度の改定をお願いしたい。
6. 全スタッフの日単位、月単位の動向を把握できるようなシステムが必要。

### (4) 考察

経営方針、教育活動方針については、今後とも機会をとらえて周知を徹底したい。

### (5) 関係者評価・意見

意見：なし

### 3 教育活動

#### (1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	教育理念等に沿った教育課程を編成しているか	3.1	87.3%
2	学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.0	80.0%
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.0	80.0%
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.2	85.5%
5	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.2	83.3%
6	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	3.2	90.6%
7	指導力のある教員の確保に努めているか	2.6	52.8%
8	先端的な知識・技術・技能等の教員研修や指導力など資質能力向上の取組が行われているか	2.9	83.0%
9	教職員の能力開発のための研修が行われているか	3.0	81.1%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

#### (2) 現状の概要

教育課程は、教育理念、教育活動方針、学科教育方針および教育課程編成委員会での提言も踏まえて編成され、学科ガイドブックとして公表している。この中では育成する学生像、授業時間数や到達レベルを明示しているが、これらに関する項目の評価が低下した。学生の能力差や留学生の増加により、教育到達レベルにバラつきが生じていることに起因すると判断している。

授業評価は、教育の質の向上の観点から教員評価の一環として位置づけ、学生による授業アンケートを年2回、教員による授業評価を年1回実施し、管理職による授業評価と合わせ総合的に評価している。

教員の資質能力の向上に関しては、年間を通して系統的、計画的に教員研修を実施するとともに外部講師を招聘した講習会やテーマを設けた公開授業等を実施している。併せて資質・能力、指導力、豊かな人間性を備えた教員の確保に努力しているが、技術者不足の影響もあり苦労している。

#### (3) いただいた意見

7. 報酬を見直してでも、指導力のある教員の確保に努めてもらいたい。
7. 日本語学科の教員は、全国的に不足している。
8. 資質能力の向上には、働く環境の改善が必要である。
9. 授業のため研修に参加できないことが多いので、考慮してほしい。

#### (4) 考察

今年度、教育活動の具体的方針として挙げた「職員の資質・能力の向上」「本校の特色を生かす教育の一層の充実・発展」に関連する項目でもある。令和2年度には「三つの方針」の策定を行うが、この中で改めて学科ごとの教育目標、到達目標を明確にする予定である。教育到達レベルやカリキュラム編成の項目の評価が下がったことは、教職員の関心が高まっているためと肯定的にとらえている。

ただ、5. 8. 9. の項目では肯定的意見が増えている（↑）にも関わらず評価が下がっており、不適切と感じている意見も目立つことを表している。学科または個人ごとの教育活動の足並みが乱れているようなので、教育活動を見直すとともに教職員の研修方法も再考したい。

#### (5) 関係者評価・意見

- 意見：・資格取得に力を入れているのはわかるが、資格合格率をもっと高めてもらいたい。今後の資格取得に対する具体的な目標を明確にすると良い。（電気工学科）
- ・当社では社会人意識になりきれていない新入社員もいて、コミュニケーションがうまくとれずに困っている。学生指導を一層充実していただきたい。（建築工学科）
  - ・本業界でもシステム化が進んでいるので、新知識や資格をもった卒業生を送り出して欲しい。（測量環境工学科）
  - ・やりたいことがわからない学生は、色々やった中でやりたいことを身につけ、仕事についていけると良い。希望分野や進路を学生の適性を見極めて設定できる指導を希望する。（ものづくり創造学科）
  - ・指導力のある教員の確保が難しくなることについて、対策を検討していただきたい。（ものづくり創造学科）
  - ・ディレクター（番組制作）希望が多く、現場（技術職）希望の学生が非常に少ない。すべてがクリエイターになれるわけではないと思うが社会のニーズに合わせた指導をしてほしい。（映像音響学科）
  - ・食品づくり（酒造り）の研修等の取組みに対する学生個々の温度差（求めるものの違い）を感じることがあり、学生の仕事意識を高める指導をしていただきたい。（食品生命科学科）
  - ・国家資格の取得について、本校の卒業生はよく頑張っており、これからも優秀な人材育成のために取組んでもらいたい。（一級自動車工学科）
  - ・配付資料は、非常に多くの意見や解答がなされ細かく取りまとめられている。考察で記述されている内容の改善を期待する。（二級自動車工学科）
  - ・企業にとっては、成績評価や進級・卒業判定基準が不明瞭である。また資格取得が到達点ではなく、早く現場の仕事に慣れさせる指導が大切だと思う。当社でも留学生を迎えるにあたり、どのように指導されるのか情報共有や意見交換をしたい。（国際自動車工学科）
  - ・新型コロナウイルス感染拡大防止に係る学校の取組み及び授業の遅れに伴う対策についてどのように実施しているか。（同窓会）

## 4 学修成果

### (1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	就職率の向上に努めているか	3.4	88.7%
2	資格取得率の向上に努めているか	3.4	98.1%
3	退学率の低減に努めているか	2.8	67.3%
4	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.8	82.2%

右欄は4または3と答えた人数の割合（%）を示す

## (2) 現状の概要

専門学校にとって、資格取得と就職率は生命線である。学生一人ひとりの適性を生かした資格指導と就職支援に努めており、安定した成果が出ている。

本年度は前期での退学者が多かったため、この項目の評価が下がった。その後、学生の観察に努めるとともに、家庭との連携を密にした指導を行った結果、後期の退学者は減少し、通年では例年程度の退学率とすることができた。ただ、共働きが増えているため家庭連絡、家庭訪問の時間も設定しにくくなっており、今以上のレベルでの教職員（担任、学科、課）の相互協力が必要になっている。また留学生の場合は退学率に加え、授業料滞納などによる除籍率も高い。家庭連絡も難しく、対応に苦慮している。

工業専門課程の卒業生については半年後に現状確認を、就職先の企業に対しては5年間の追跡調査を行っている。また、企業からの意見や課題等については、各学科へフィードバックし、指導内容・指導方法の改善に努めている。

## (3) いただいた意見

1. 2. 学生は、資格取得および就活に頑張っていると思う。
3. 努めているとあるが、成果が伴っていない。
4. 離職する学生が多いので、卒業生のフォローは必要と思う。
4. 卒業生の情報を共有したい。

## (4) 考察

現在、留学生の出身国は10カ国にのぼっているが、教職員で対応可能な言語は英語、中国語、ベトナム語に限られている。専門の通訳をお願いしたこともあったが予約が必要なことなど制約が多く、また外国語に対応できる常勤職員をこれ以上増やすことも難しい。今後とも検討が必要である。

## (5) 関係者評価・意見

意見：なし

# 5 学生支援

## (1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.0	80.0%
2	学生相談に関する体制は整備されているか	2.8	67.3%
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.8	65.5%
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.7	56.4%
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.7	55.6%
6	保護者と適切に連携しているか	2.9	77.4%
7	卒業生への支援体制はあるか	2.6	50.9%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

## (2) 現状の概要

学生支援に関しては、担任を中心に組織的・計画的な体制の確立に努めている。併せて、電話連絡や家庭訪問等で保護者と連携した肌理細やかな指導を心掛けており、日本人に関しては安定した評価となっている。ただ、前項の4学修成果と同じく留学生の支援には十分な成果が得られていないと感じている教員が多いことも感じられた。

また、創立30周年を機に、工業専門課程の卒業生については、同窓会との連携が進んでいる。今後とも卒業生相互の絆を深めるとともに、動向把握に努めてゆきたい。一方、日本語学科卒業生は同窓会会員となっていないため、他校への進学者(日本語学科卒業生の約40%)については支援体制がない。

## (3) いただいた意見

2. 4. 6. 業務が多く、学生の支援が出来る状態ではない。
2. 日本語学科のOC参加時期が制限されたため、受験に影響を与えた。
4. 校医やカウンセラーの設置など、改善の余地がある。
6. きめ細やかな指導ができているとは言い難い。特に留学生の保護者との交流は皆無である。
7. 卒業生の支援体制は十分ではない。

## (4) 考察

日本語学科卒業生の同窓会加入については、今後とも継続して検討したい。

## (5) 関係者評価・意見

意見：なし

# 6 教育環境

## (1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか	2.5	51.8%
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2.8	69.2%
3	防災に対する体制は整備されているか	2.9	75.0%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

## (2) 現状の概要

施設・設備は、専門教育の推進に対応できるよう、優先順位を設けて整備に努めている。本年度予算では実習設備等の充実を十分に行うことができていないが、技術の進展や養成施設での要件等を考慮しながら、設備の更新や新設を進め現場に即した学習内容の充実を進めている。

学校での事前・事後指導も含め100時間程度のインターンシップを奨励している。また、企業での先端技術習得に向けた研修やイベント等へも積極的に参加している。なお、海外研修は今年度も未実施である。

安全点検や避難訓練、救命法講習会を実施し、教職員の安全意識の向上、迅速な危機対応能力の向上に努めている。

## (3) いただいた意見

2. 海外研修は高額となるため、実施が難しい。

2. インターンシップが増えたため、補習授業が難しくなっている。
3. 避難訓練の頻度を上げ、学生も参加させるべきである。

(4) 考察

年2回のアンケート調査による学生の要望等については丁寧に回答し、学生の学習意欲の向上に繋げたい。

令和2年度のインターンシップに関しては、教育的効果の向上を目的に、実施時間にこだわらない取り組みを行いたい。

防災に関しては危機管理マニュアルの内容を充実させ、適切な防災対策・緊急対応に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

意見：・学び方の変化に伴い、学校としても対応が今後必要になるのではないのか。(映像音響学科)

・インターンシップの実施時期・期間について、知らない学生が見受けられる。学生が十分に理解する指導をしたい。(一級自動車工学科)

## 7 学生の受け入れ募集

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切	3：ほぼ適切
		2：やや不適切	1：不適切
1	学生募集活動は、適正に行われているか	2.5	46.3%
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2.7	54.7%
3	学納金は妥当なものになっているか	3.1	84.9%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

(2) 現状の概要

広報企画課を中心に、各学科と連携して計画的な高校訪問やガイダンスへの参加に努めているが、日本人受験生が伸び悩んだため、学生募集活動に関する評価が低下した。また、日本語学科入学希望の留学生についても、意欲、学力、経済的な面等を総合的に判断した適正な受け入れに努めている。教育成果は、ガイダンスや高校訪問等において正確に伝えるとともに、ホームページ上からも定期的に発信している。

(3) いただいた意見

1. 留学生に関しては、数とともに質も重視すべきである。
1. 文系の学科も検討した方が良いのでは？
1. 2. 募集活動が適正に行われていればもっと増えているはずである。学科の内容を理解し広報には頑張っていたきたい。

(4) 考察

来年度は広報企画課と各学科との連携を一層強化したい。特にオープンキャンパスの内容を精査し、受験生の増加につながる努力を行いたい。

留学生については、日本での就職を念頭に、入学時から目的意識、日本語能力、経済状況などを的確に把握し、4年間の教育という観点を踏まえた適切な指導・支援・対応に努めており、成

果が出てきた。今後は、学力レベルが高く、目的意識のしっかりした留学生を入学させることを目指したい。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

## 8 財務

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.2	24.0%
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.5	46.9%
3	財務について会計監査が適性に行われているか	3.0	79.2%
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.1	79.6%

右欄は4または3と答えた人数の割合（%）を示す

(2) 現状の概要

学校の中長期的経営基盤は安定しており、予算・収支計画は事業計画に基づき適正に執行されていると言えるが、今年度は日本人学生が伸び悩んだため、評価が低下した項目が多かった。また、財務状況は理事会の監査を経た後、HP上に公表している。

(3) いただいた意見

1. 資金繰りのためには、学生数、特に日本人の増加が必要だが現状は厳しい。賞与等が不安である。
2. 留学生の入学人数が安定しないため不安材料が多い。もしもの時に備えた予算計画が必要。

(4) 考察

今後も学生の確保に努め、財務の健全化に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

## 9 法令等の遵守

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.3	92.6%

2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3	92.6%
3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.1	83.6%
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3.4	94.4%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

(2) 現状の概要

法令及び専修学校設置基準を遵守し、各法令に準拠した適正な学校運営がなされている。個人情報については、コンプライアンスに基づき厳重な管理がなされている。また自己点検・自己評価を実施しており、結果と問題点の改善状況をHP上に公開している。

(3) いただいた意見

3. 問題点の改善に取り組んでいるとあるが、成果が目に見えない。少なくとも教員の意識改革にはつながっていない。

(4) 考察

各部署での分析、総括を踏まえ、課題を共有し改善を目指すとともに、今後も法令遵守に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

## 10 社会貢献・地域貢献

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.1	81.8%
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.0	74.5%
3	公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	2.9	76.4%

右欄は4または3と答えた人数の割合(%)を示す

(2) 現状の概要

大学生へのペインティング指導や各種団体への貸校舎等による本校施設の活用を通じて、地域貢献を行っている。また、学生課の重点目標にボランティアの推進を掲げ、清掃ボランティア、災害ボランティアへの参加を促し、意識は徐々に高まってきている。特に、留学生の意識が高く、積極的な参加が見られた。評価が下がっているように見えるが、昨年度は西日本豪雨のボランティア参加者が多かったことが要因で、例年に比べれば高い水準と言える。

高校等への出前授業、子供向けイベントや各種イベントにも積極的に取り組んでいる。また、専門実践教育訓練の施設として5学科が認定を受けている。また、社会人も受講可能な二級建築士試験講座の開講も行っている。社会人の学びの場としても、今後さらに教育の充実を図り、社会のニーズに応えていきたい。

(3) いただいた意見

2. 学生の興味を惹くような、あるいは専門知識に関連のあるような多彩なボランティア活動を紹介してはどうか。また、授業の一環として実施することができないか。

(4) 考察

学校教育法では、学校は地域住民に対して説明責任があり、その理解と協力を得ることが明記されている。このためにも地域・社会に求められる学校、貢献する学校となれるよう、今後ともボランティア活動への参加を積極的に促すとともに、学生の自主的な活動も支援したい。

(5) 関係者評価・意見

意見：なし

## IV 学校関係者評価委員会について

---

学校関係者評価委員会は、参加者の日程の都合等により、次の2グループに分けて開催した。本報告書は、それぞれのグループから出された意見等を集約したものである。

第1グループ 令和2年6月18日（木）13:00～15:00

出席委員：小上敏寿、石居祐二、木山英治、岡田和久、宮成みどり

第2グループ 令和2年6月24日（水）13:00～15:00

出席委員：栗田真志、原 潔巳、森 幸久、坂本忠俊、杉山昌希、藪田尊典

## V まとめ

---

今回、各委員からいただきました御質問については、学校長、事務局長、各学科長が本校の現状と今後の取り組みについて説明し、御理解をいただきました。また、御意見や御提言等は、可能などころより令和2年度の教育活動に取り入れ、本校教育の一層の充実に取り組んでいく所存です。

おわりに、令和元年度学校関係者評価委員会を開催するにあたり、御多忙にも関わりませず御出席を賜りました委員の皆様へ、心から感謝申し上げます。